

アイヌ文化振興への貢献

昨年の7月、白老町に「ウボボイ（民族共生象徴空間）」がアイヌ文化の復興・創造・発展のための拠点となるナシヨナルセンターとしてオープンし、道内各地でアイヌ文化振興の機運が高まっています。

北海道森林管理局でも、大切なアイヌ文化を、守り伝える取組を行っているので紹介します。

ポロト自然休養林での森林づくり

北海道森林管理局では、ウボボイに隣接するポロト自然休養林を、アイヌ文化を象徴する森林として育てていくために、この森の4分の1を占めるトドマツ人工林（約80ヘクタール）を、北海道の森林の元来の姿である針広混交林や広葉樹林に誘導する取組に着手しました。

今年度は、9月にその前段として、ポロト自然休養林内において、アイヌ文化にかかわる樹木であるオヒヨウニレ20本、アオダモ15本、エンジュ10本の3種類45本の先

行植栽を実施しました。



ポロト自然休養林での植樹

今後は、白老町との連携も進めながら、トドマツ人工林を現在、北海道森林管理局が進めている「天然力を活用した多様な森林づくり」の手法により、200年〜300年生の針広混交林や広葉樹林に誘導し、アイヌ文化に密接に関わる森林産物の持続的供給と多様な野生生物の生息の場とすることを目指しています。

アイヌ共用林野

アイヌ共用林野は、「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律（平成31年4月26日法律第16号）」に基づき、国有林野においてアイヌの儀式の実施その他アイ

又文化の振興等に利用するため林産物を国有林野から採取できるとするものです。



アイヌ共用林野の契約締結式

昨年7月に、日高南部森林管理署において、新ひだか町・日高南部森林管理署・新ひだかアイヌ協会・三石アイヌ協会が一同に会し、「アイヌ共用林野契約」を締結しました。

今後も、他署において共用林野の設定に向けて、資源調査等を行う市町村等の技術支援を行いながら、各地域と共に共用林野の設定に取り組めます。

「21世紀・アイヌ文化伝承の森再生計画」

北海道森林管理局は、平取町、平取アイヌ協会と、平成25年にアイヌの

人々が利用してきた北海道古来の森林の再生などを理念とした「21世紀・アイヌ文化伝承の森再生計画（コタンコロカムイ（シマフクロウ）の森づくり推進のための協定）」を結び、21世紀・アイヌ文化伝承の森プロジェクトとして、平取町内の国有林を活用して、オヒヨウニレの植樹やシマフクロウの巣箱の設置等を実施してきました。



「21世紀・アイヌ文化伝承の森再生計画」の協定書

昨年、この協定の更新にあたり、3者で意見交換を行い、今までの取組みの拡充を図りながら、アイヌ文化伝承に必要な再生、コタンコロカムイが棲める環境の整備など取組を推進することに確認しました。